

地球温暖化  
**気候危機**  
 を考える  
 vol.1

# 地球温暖化で 私たちの食や暮らしが変わる!



2022年夏に発生したパキスタンの大洪水。現在も多くの人が屋外での生活を余儀なくされている。(写真はアル・カイール アカデミーより)



2022年10月の台風22号により、フィリピン・ネグロスのバナナ産地でもバナナの木が根こそぎ倒れるなど、甚大な被害に見舞われた。



2019年10月に発生した台風19号により落ちてしまった長野県の産直生産者のりんご。



「令和2年7月豪雨」により氾濫した大分県の玖珠川。

近年、世界中で顕著になっている気候変動は、二酸化炭素などの温室効果ガスによる地球温暖化が原因とされています。日本でも毎年のように自然災害が発生し、甚大な被害がもたらされています。生態系や農林水産業への影響も大きく、気候変動の影響は今後ますます深刻化していくと予想されています。

地球温暖化問題は、実は私たちの食や暮らしが大きく左右されることになる、私たち一人ひとりが考えていかなければならない大きな課題です。共生の時代では、今号からシリーズで地球温暖化の影響を伝え、私たちがこの問題にどう向き合い、何ができるのか、考えていきます。

## 気候変動は 生命存亡の危機!?

2021年に発表されたIPCC(国連気候変動に関する政府間パネル)第6次評価報告書によると、地球温暖化による気候変動が、大雨の頻度や強度の増加、海面水位の上昇、北極の海水の減少などの様々な自然災害を引き起こしています。今後、生態系への影響はもろろん、インフラや食料生産、水不足や感染症など、人間社会にも深刻な影響を及ぼすとしてい

報告書では、「人間の活動が大気・海洋及び陸域を温暖化させてきたことは疑う余地がない」とし、人間の経済活動がこの気候変動をもたらしてきたと断言しています。

また、このまま対策を講じずに化石燃料に依存して温室効果ガスを排出し続けると、世界の平均気温は産業革命以前と比べて今世紀末までに最大5.7℃上昇するとしています。現実になれば、安定した食料生産ができなくなり、地球上の多くの生命が絶滅のリスクに晒される危機的状況に陥

る可能性があるとも言われています。

※石炭・石油天然ガスなど

**日本の農業・水産業や私たちの食にも影響**

近年、日本でも豪雨や大型台風などが頻発し、農作物の被害が急増しています。また、気温の上昇により農作物の品質が低下しています。

グリーンコープの産直生産者もほとんどが温暖化の影響を実感しており、「病害虫の発生が多くなった」「果実の着色が減り、着色が悪い」など、栽培が年々難しくなっている状況が明らかになっています。

農林水産省の予測研究によると、今後、温暖化により栽培適地が変化するなどの影響も予想されています。また、暑さによる畜産の生産量の低下や、海水や河川の水温上昇による水産業への影響も懸念されています。

気候変動が深刻化すると、私たちの食生活や農・水産業を営む人々の生活も、ますます大きな影響を受けることとなります。温暖化の影響を受ける地域では、農業や水産業そのものが衰退することにも

## 気候変動による影響とリスク

- 生態系**  
陸域、淡水域、海洋
  - 水・食料生産**  
水不足、農業・畜産業・漁業
  - 健康**  
感染症、熱中症、メンタルヘルス
  - インフラ**  
交通・通信
  - 生活水準**  
経済格差
- IPCC第6次評価報告書を基に作成

## 未来はこの8年にかかっている!

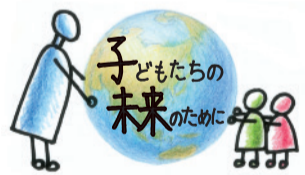
2021年に開催されたCOP26(国連気候変動枠組条約第26回締約国会議)では、産業革命以前からの気温上昇を1.5℃に抑えるという目標を確認しました。しかし、1.5℃を目指すためには、2050年までにCO<sub>2</sub>排出量を実質ゼロにする必要があり、そのために2030年までに2010年比で約45%削減することが必要とされています。世界の若者たちも、地球温暖化を止めるための対策を求めて声を上げています。しかし、現在までの各国の温暖化対策では、1.5℃目標の達成は全く見込めない状況です。

地球環境が危機的状況にある今、政府や大企業だけに任せるのではなく、市民レベルでの取り組みと私たち自身の行動で、温暖化の流れを変えていく必要があります。

IPCC第6次評価報告書では、CO<sub>2</sub>排出量を削減するために、再生可能エネルギーの活用や節電・省エネ、森林の整備、路上輸送における電気自動車への導入なども有効とされています。

グリーンコープはこれまでも、みどりの地球をみどりのままに子どもたちに手渡すために、環境を守る取り組みを続けてきました。気候変動の原因が地球温暖化によるものとするIPCCなど専門家による報告や予測に共鳴し、地球温暖化の問題を「私たち自身の危機」として受けとめて、さらに一歩踏み出し行動していこうと考えています。

地球と生命、私たちの未来は、これからの8年、私たちが何を選び、どう行動するかにかかっていると云えます。私たち一人ひとりに何ができるのか、ともに考えていきましょう。



No.173

## 脱原発を実現するために

10年以上が経過した今も、廃炉への道筋さえ見えてこない東京電力福島第一原発事故を、まるで終わったかのように語り、電力ひっ迫やCO<sub>2</sub>を排出しないことを理由に原発再稼働を進めようとする国のエネルギー政策に対して、私たちができることはあるのでしょうか。

ネイティブアメリカンの教えの中に「七代先を考えよ」というものがあります。「七代先とは自分が生きている現在から何百年も先の未来のこと。今、目の前にある美しい風景を、未来を生きる子孫のために残さない」という教えです。今を生きる私たちの周りには、地球環境問題をはじめ、解決しなくてはならない問題が山積しています。その一つが「原発問題」です。

一人でも多くの人が原発の危険性を意識することで、脱原発を実現するための一歩になります。「原発のない景色」を未来の子どもたちに残しましょう。

グリーンコープ共同体組織委員会

一般社団法人グリーンコープでんきから

**ひろがれ! 私たちの発電所**

**グリーンコープ・グリーン電力出資金**  
 10,995人 1,087,693,000円 (2022年11月25日現在)

「原発の電気ではなく、自然エネルギーでつくった電気を使いたい」という願いをかなえるために、グリーンコープ・グリーン電力出資金に協力しましょう

2022年10月の売電量	
神在太陽光発電所売電量 109,810kWh 定格出力1,057kW(309世帯相当)	グリーン未来ソーラー売電量 38,663kWh 定格出力376kW(110世帯相当)
平池水上太陽光発電所売電量 121,853kWh 定格出力1,260kW(368世帯相当)	若宮物流センター太陽光発電所売電量 4,527kWh 定格出力47kW(14世帯相当)
深年太陽光発電所売電量 167,042kWh 定格出力1,550kW(453世帯相当)	広島物流センター太陽光発電所売電量 4,587kWh 定格出力47kW(14世帯相当)
	グリーンコープやまぐち生協 西部地域本部太陽光発電所売電量 4,588kWh 定格出力54kW(16世帯相当)